

# 東京2020オリンピック・パラリンピック 選手村ビレッジプラザへの 県産森林認証材の提供を通じた販路拡大の取組

経済産業部 森林・林業局

## 本県の強み① 全国トップクラスの森林認証林面積

### ○ 森林認証制度とは

- ・環境と経済を両立させた森林管理を第三者機関が認証する制度
- ・この森林から生産された木材について消費者の選択的な購買を促す
- ・国内ではFSC、SGECによる認証が進んでいる

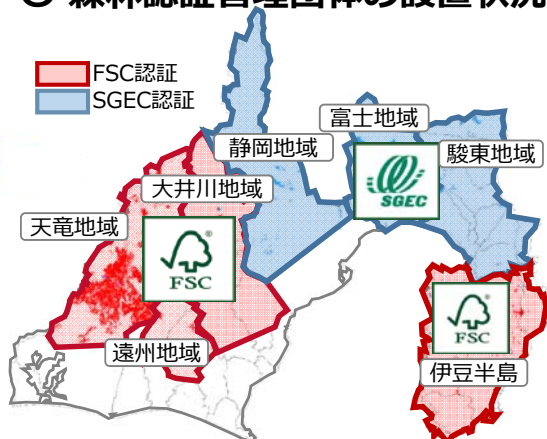


FSC  
森林管理協議会



SGEC ⇔ PEFCと相互承認  
「緑の循環」認証会議

### ○ 森林認証管理団体の設置状況



県下7地域で森林認証取得体制が構築

### ○ 森林認証林面積と認証材供給力

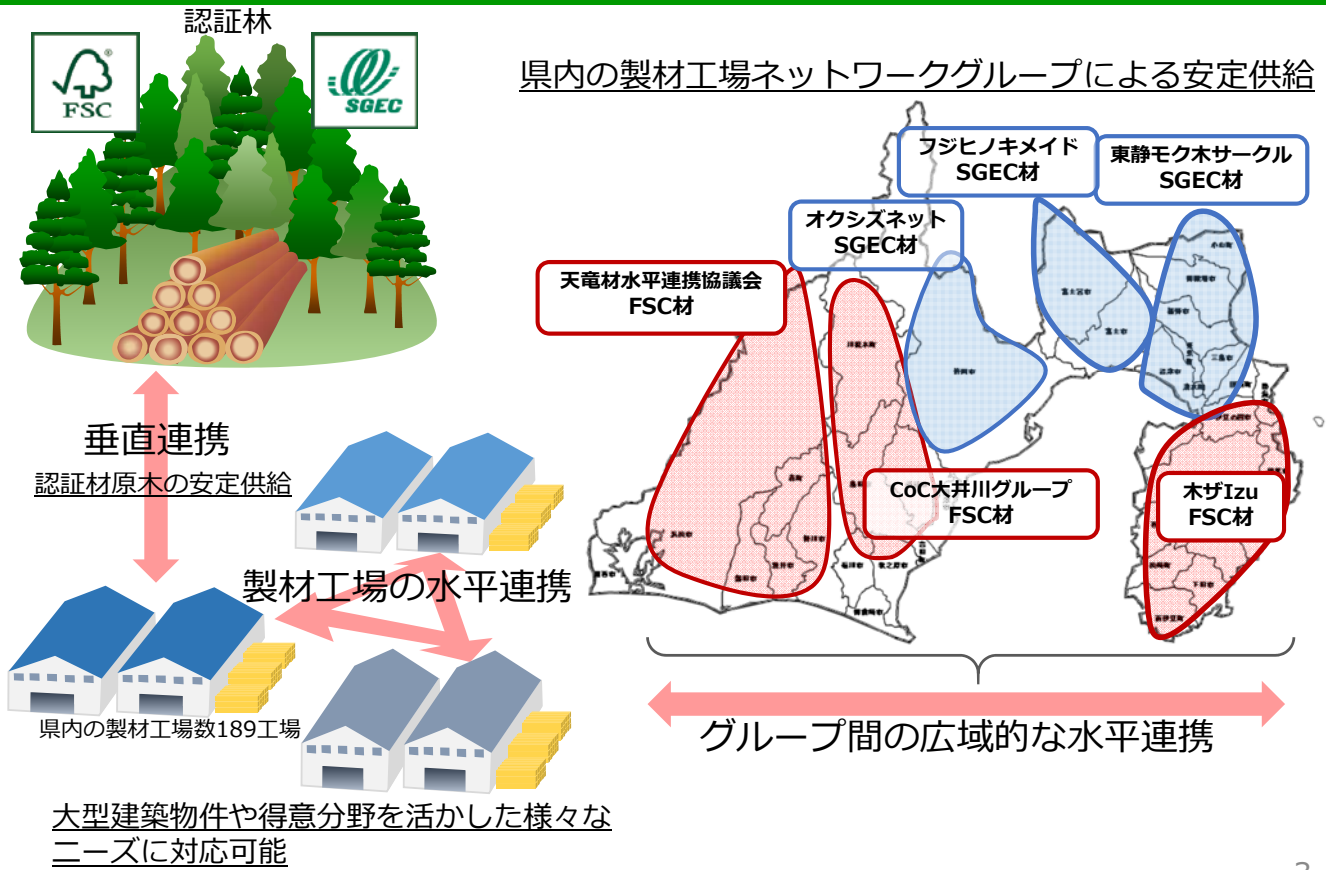
#### ○ 認証取得面積

0.9万ha(H20) → **6.7万ha**(H30)  
全国 **4位** (FSC **2位**・SGEC 7位)

#### ○ 認証森林からの生産量

8.3万m<sup>3</sup>(H27) → **13.3万m<sup>3</sup>** (H30)

# 本県の強み② 垂直・水平連携による県産材供給体制



# 日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～

## ○日本の木材活用リレープロジェクトの概要

- ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が全国自治体に協力を呼びかけ
- ・選手村ビレッジプラザの建築に必要な木材提供を受け、レガシーとして後利用を図る

## ○選手村ビレッジプラザの概要

所在地	東京都中央区晴海四丁目
構造、規模	木造・平屋建て、約5,500m <sup>2</sup>
施設の用途	チーム歓迎式典会場、店舗、メディアセンター等
使用木材	約1,300m <sup>3</sup> 4万本 認証材は「持続可能性に配慮した木材の調達基準」に適合

県産森林認証材の品質と供給力を国内外へPRする絶好の機会

## ○協力自治体

- ・全国63自治体
- ・県内では、県のほか、浜松市、静岡市、小山町が協力

## ○プロジェクトの流れ

区分	H29	H30	R1	R2	R3～
静岡県	応募申請		森林認証材提供	返却	レガシー後利用
組織委員会	協力自治体選定		建築工事	解体	大会期間



森会長から知事への感謝状贈呈 (H29)

# 提供木材の納材までの流れ



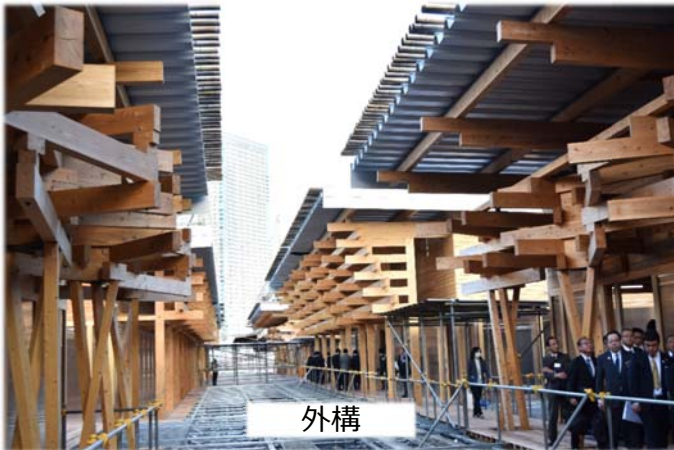
東京の建設現場へ納材 (9~10月)

県内各地の森林組合、製材工場等による  
オール静岡の取組

提供木材出発式 (9月10日)



# 選手村ビレッジプラザ内覧会 (1月29・30日)



## 本県が提供した県産森林認証材の概要

- 材積は約 4 1 m<sup>3</sup>、部材本数で約1,200本、樹種はスギ、ヒノキ
- 県内各地域のFSC・SGEC双方の森林認証林から原木（丸太）を調達
- 品質・性能の確かなJAS製品として、柱、梁、床材等に加工
- 選手村メディアセンターやゲストパスセンター等に利用



**ビレッジプラザ使用木材の6%が静岡県産森林認証材**

※浜松市、静岡市、小山町提供分を含む

7

## レガシー利用と今後の取組

- 木材提供の取組を記録したPRツールを作成し、情報発信
  - ・首都圏展示会の出展時に利用
  - ・YouTube や SNS で公開
  - 普及啓発、販路開拓

- 返却される認証材をレガシーとして後利用
  - ・多くの県民が訪れる県有施設での利用
  - ・PR用ノベルティなどを作成（県民からアイデアを募集）
  - 県産材、森林認証のPRに活用

- 森林認証の普及、認証材の利用促進、認証林の拡大
- JAS製品等の県産材製品の供給体制をさらに強化
- 首都圏等の非住宅分野への販路の開拓
- 県内の住宅分野のシェア拡大

**森林認証材の安定供給力を活かした県産材の販路拡大**

- ・世界基準の持続可能な森林管理の実現
- ・森林認証材を木材のスタンダードへ

 **SDG s の達成に貢献** 

8